



—東地中海地域ニュース—

イラン：サジアラビアとの関係

(11月25日付現地各紙)

11月25日付現地各紙は、イエメン北部での戦闘に関する外務報道官の発言（11月24日）およびイラン人学生の抗議に関して報道している。概要は下記の通りである。

1. メフマーンパラスト外務報道官の発言（11月25日「イラン・デイリー紙」）

アラブ世界およびイスラム世界は、イエメン北部における戦闘に対して懸念を抱いている。我々は、すべての党派に対して自制を求めると共に、対話を通じて問題を解決するよう求める。

この戦争はイスラム世界の利益を損なうのみであるが、他方でイスラム世界に対して敵対的な勢力は、我々の地域における戦闘から利益を得るであろう。

2. 学生らによる在イラン・サウジアラビア大使追放の要求（11月25日「ケイハーン紙」）

11月24日、サウジアラビア政府によるイエメンのシーア派に対する軍事攻撃に対して抗議する学生らは、イラン外務省前でデモを行い、駐イラン・サウジアラビア大使のイランからの追放を求めた。

全国からテヘランに集結した学生らは、寒い天候にもかかわらず、25日まで座り込みを続ける予定である。

学生の一人は、「イエメン北部におけるシーア派イスラム教徒に対する攻撃において、サウジアラビアはシオニストによる植民政策の実行者となっている」と述べた。